

# 世界遺産運動の陰で見失うもの

## 低下続ける行田の力

行田市議会議員

永沼 宏之

「さきたま古墳群を世界遺産に」との運動が、広く進められています。私たちの身近な歴史遺産が世界に認められることになれば、大きな名誉であり、大変な快挙となります。ぜひ実現させたいものです。

しかしその輝きの陰で、私たちに見えなくなっているものはなにかでしょうか。

私が最初に上田清司知事から世界遺産のことを聞いたのは、平成16年6月（表面の写真参照）のことです。知事はその日、さいたまタワーの話題の後に、行田の私をつかまえて、「さきたま古墳群は世界遺産に匹敵する価値がある。行田の人々がもっと運動して、（行田）市がさきたま古墳群にお金を投じ、整備を進めるよう運動すべきだ。」と語ってくれました。まるでさきたま古墳群が県の管理する公園であることを認識していないともとれる話し方だったことを今でも良く覚えています。

知事が就任して4年が経とうとして、いる現在でこそ、不屈の精神と傑出した行動力ある政治家ならではある成果がいたるところに現れています。ところが当時の知事は就任後まだ間もなく、知事としての求心力を「さいたまタワー」の建設に求めていた時期です。世界遺産については、その後10月1日の県議会での発言が新聞に報道され、大きな話題となり、現在に至ることもなりました。

ところが古墳（地方豪族の墓）であつて陵（天皇の墓）でさえない「さきたま古墳群」が世界文化遺産と認められ

るのは、さきたまに神々が宿り、人々の信仰の対象となったときだけでしょう。実現可能性の小さな夢物語に心奪われ、足元の現実が見えなくなっている心配はないでしょうか。

知事の「言の葉」にのせてもらっただけで、舞い上がってしまつたのであれば、踊らされているのと同じではありません。せっかくここまで盛り上がった世界遺産登録運動のエネルギーを具体的なまちづくり、どのように活かし、どう展開させるかが本当の課題ではないでしょうか。

さて世界遺産登録運動は全国ほぼすべての都道府県で行なわれています。それらの中には、地元市町村と都道府県が一体となって推進しているところが数多くあるのに、上田知事以外の埼玉県全体としての協力がいまひとつ得られていないと感じているのは、私だけでしょうか。

左の表は、国や県の施設、出先機関

行田市から出て行った国、県の施設

年	種別	名称	移転先
平成9年	県	農林事務所	加須市
平成〃年	〃	農業改良普及所	〃
平成〃年	〃	県民センター	春日部市
平成10年	〃	繊維工業試験所	熊谷市
平成11年	〃	教育事務所	春日部市
平成14年	国	法務局出張所	熊谷市
平成18年	県	保健所	加須市

のうち近年、行田から出て行ったものとその移転先をまとめたものです。

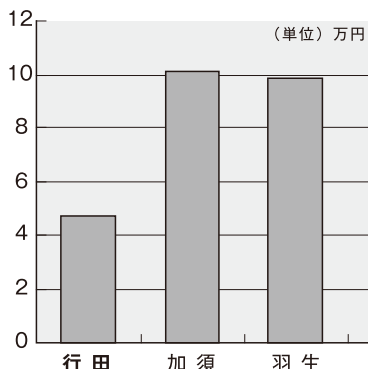
棒グラフは、各市の国道や県道などの幹線道路や県立公園（さきたま古墳公園を含む）をはじめとする社会資本に対して、県が過去4カ年にわたり支出した事業費を各市の人口で割ったものです。合併をした熊谷市や鴻巣市は除いていますがもし計算したとすれば、まごころ国体を開催した熊谷市は行田市の10倍近くになります。

残念ながらこれが行田の政治・行政上の実力なのです。

保健所が加須保健所に統合されてしまったこと。県に人事権がある小中学校の教員のうち、優秀な人材が行田から流出しがちなこと。県立不動岡高校が浮かび、行田の高校が沈んでしまったこと。国体に関連した数億の公共事業が行われた際、行田にはほとんどお金が落ちなかったこと。人口で行田を下回る加須や羽生のほうが土木予算の獲得金額が大きいこと。それらはどれも「行田の力の低下」という大きな流れの中で表出する現象の一つにすぎないのです。そしてそれはもはや数年

県の土木、公園関係事業費

（平成15～18年度4カ年の一人当たり概算合計額）



単位では回復できないほど深刻なものとなっております。

この行田の力の低下をもちましてしまったのが、積年にわたる都市経営能力の欠如であることは明らかです。

時間的、空間的な広い視野や、歴史的観点に立った構想力を欠くり、長年を長年にわたり選り続けたのは、私自身です。選ばれたのが灰色のリーダーであれば、私たちが曇っていたのであり、曲がったリーダーであれば、私たちが歪んでいたのです。

そしてその責任とツケは私たち市民一人ひとりと私たちの次の世代が負うしかありません。

この文章は特定の立場にある人物や、あった人物の批判を目的としたものではありません。私自身の戒めとしたものです。念のため♥

### 永沼 ひろゆき

昭和43年7月7日生まれ。38歳。

行田市行田(下町地区)にて薬剤師の両親が薬局を営む姿を見て育つ。

行田市立中央小学校、行田中学校を卒業。

早稲田大学本庄高等学院を経て、早稲田大学政治経済学部を卒業。在学中より家業を手伝う。

平成15年の統一地方選挙にて行田市議会議員に初当選。

PHP総合研究所(故松下幸之助氏創設)親学研究会委員として平成18年12月と平成19年1月に著書(共著)を出版。